

Student & Graduate

『この場所から、新しい未来へ』

社会で活躍する東京医科歯科大学の卒業生と、学生が語り合う対談コーナー。

今回は、市中病院、大学病院、診療所と様々な規模の医療機関での勤務経験がある先輩が、進路に迷う医学部の後輩に向けてエールを送ります。

臨床実習でいろいろな診療科を経験したからこそ新たな迷い

因間 私は高校時代の職業体験で医師の往診を見学して、患者さんのお宅でも医療を提供できると知ったことが医学部進学のきっかけだったので、在宅医療や総合診療に興味を持っています。ただ、スチューデント・ドクターとして臨床実習を積む中で、高度医療の現場を経験して患者さんを救う手段はいろいろあることを実感し、たくさん選択肢の中から何を選ぶべきか悩んでいます。

沼沢 私は神経症候学に特に関心があり、卒業前に脳神経内科を専門に選ぶと決めま

した。入局後の専門的な臨床経験に加え、研修医2年目の地域医療研修をおおぞら診療所で経験したことが現在につながっています。研修を通して、狭義の在宅医療に留まらず、地域という「現場」で自分が引き続き研鑽を積むべきと直感しました。

〃行動の軸〃ができれば

訪れたチャンス迷わずつかめる

因間 私もいろいろな現場で刺激を受けるのですが、実際のアクションに落とし込めないのが悩みです。先生はなぜ、地域医療の現場を見てすぐに決断できたのでしょうか？

誠馨会 新東京病院内科 医師
東京医科歯科大学病院総合診療科 非常勤講師
千葉健愛会 あおぞら診療所 非常勤医師

沼沢 祥行 Yoshiyuki Numasawa

2006年東京医科歯科大学医学部卒業。東京医科歯科大学神経内科助教などを経て現職。また、2019年から東京医科歯科大学大学院の臨床医学教育開発分野非常勤講師も務める。



沼沢 学生時代から「人を支えるために、自分は何ができるのか？」と考え続けてきたことが大きいですね。神経症候学に関心が出たのも、患者さんのできないこと・できることを正確に理解したい、ということだったと思います。そして、地域というフィールドで経験を積むことが大学病院や総合病院での経験を相対化し、深めることにつながるという確信がありました。

因間 私はまだ、目指す医師像や働き方のイメージが固まっていけないので、チャンスに出会ってもピンとこないのかもしれない。

沼沢 因間さんは、自分の〃行動の軸〃をつくっている段階だと思っんです。「これを大切にしたい」といった判断基準ができれば、チャンスを見逃さずキャッチできます。軸を見つけるには、臨床実習以外でもいろいろなモノ・コトにふれる機会を持るといいですね。

貪欲に行動できるのは

学生時代ならではの特権

因間 多様な経験を積むにはどうしたらいいですか？

沼沢 例えば、今まで回ったことのない診療科のカンファレンスや基礎系研究室のセミナーに参加させていただくなどの相

談をしてみるのも1つの方法だと思います。行動して出会ったたくさんの中の人から、メンターになってくれる人が見つかる可能性もありますよ。

因間 学生時代は自由になる時間もあるし、貪欲に行動を起こせば機会はたくさんありそうですね。すぐに実行できそうなことなので、挑戦してみようと思います。

友人からの刺激で、医療人として

も人としても成長できる

因間 いろいろな経験を若いうちに、と言われることがあるのですが、勉強以外で先生が学生時代にやっておいてよかったことはありますか？

沼沢 文化祭で大きなイベントを行った

ことはいいい経験でした。周囲の人を巻き込んでコンセンサスを得ることは、社会人になっても活かせるスキルになったと思います。そして、ぜひ友人を大切にしてほしいと思います。私は今でも他分野で活躍している友人からも刺激を受けますし、仕事だけでなく私生活についても教わるが多くあります。
因間 やはり自分の身近にいる仲間たちを大事にすることが大切なんですね。どんな分野に進むにせよ、人とのつながりは間違いなく重要になっていくと思いますし、本音で話しあえる学生ならではの関係を今後も大事にしていきたいと思っています。

医学部医学科 5 年生

因間 朱里 Akari Imma

HSLP5期生で現在はChiefを担う傍ら、国内外でのボランティア活動など、様々な経験を積み、総合診療医を目指す。趣味で16年続けている書道では、師範資格を取得。

